

Club Je Pense

2020年11月講義

生と死

エロスとタナトス

エロス

生の欲動

生命体をたゆみのない発展に導く

無意識の衝動

自己保存しようという欲動

つまり

性的欲動とも呼べる

これらを支える本能が

リビドー

タナトス

死の欲動

生命的エネルギーを零に戻そうとする

無意識の衝動

破壊し、殺害しようとする
攻撃欲動・破壊欲動

これらを支える本能が

モルティド

余談ですが

リビドーの対義語として

デストルドーが挙がることがあるが
遺伝子的に組み込まれた本能というより
瞬間的な衝動の意味合いが強い

よって

デストルドーはタナトスと
同義語に近い

また

死の衝動はあれど
死の本能などあるのか？

なぜなら

自殺する動物は人間だけではないか

しかし

サンフランシスコ州立大学の
哲学者ダビッド・ペーニャ・グスマンは
『人間以外の動物は自殺をするのか？』
という論文で動物の自傷行為や自殺の
事例を示しています

ここで
「本能」と「衝動」
について

本能については
精神分析学・心理学・脳科学などで
様々定義が異なります

ここでは

- ・生まれつきもっているもの
- ・学習なしで存在する
- ・種、性、年齢などで共通する

などある行動へ駆り立てる性質とします

衝動は
内部あるいは外部からの刺激により
思考の介入の余地がなく
心や体が動くこと
抑えがたい欲求

衝動を支えるのが本能



生のエネルギー



死のエネルギー

例えば

男性幼児にもリビドーはあるが
レイプしたいというエロスは起こりにくい

では

エロスとタナトスは
どのように影響を及ぼし合うのか

エロスとタナトスが
互いに協力しあったり
対抗し合うことで
生命の様々な活動が生まれます

たとえば

エロスの発動により性行為を
達成したいとなった時

タナトスと協力して

女性に暴力を振るってレイプをしたり

パートナー男性を排除して

女性をものにしようとする

あるいは

種の繁栄（エロス）という平和のために

それを邪魔する殺人犯を

死刑（タナトス）にして欲しいと思うのも

2つの欲動の協力によるもの

エロスとタナトスは
どちらかが100で
どちらかが0のように
片方の欲動だけでは発動することは
ものすごく稀なこと

だから人類は
平和（エロス）のために
戦争（タナトス）をする

人類から戦争がなくならないのは
エロスとタナトスによるもの

日常生活でも
エロスとタナトスは
密かに協力しながら
私たちを支えています

人が平和に暮らすためには
利害の衝突を解決しなくてはなりません

しかし
本質的には
利害の衝突は暴力（権力）でしか
解決ができない

人類が猿の頃であれば
純粹は腕力や体力がある者が
意見を通してきました

やがて

武器や道具を扱うようになると
純粹や体力や腕力だけではなく
それらを使いこなす知力がある者が
意見を通すようになりました

人類が組織を形成するようになると
個人の横暴を許さないように
組織的な法という権力によって
集団の意見を通すようになりました

例えば
家庭内において
子供が言うこと聞かない時
親としての権力を発動します

これは
良い子に育って欲しい (エロス)
そのために
権力で言うことを聞かす (タナトス)
という状態

相手が子供であれば
親の権力でなんとかありますが
これが
強姦魔や殺人犯となると
法という権力が必要です

さらに
国家単位になると
ならず者国家に対しては
国連の指示命令では無力です

そうなる

世界平和（エロス）のためには
武力行使つまり戦争（タナトス）が必要

一般的にエロス（生の欲動）
は意識されやすいですが
タナトス（死の欲動）は
意識されにくいようです

考察 1

なぜ男性よりも女性の方が
絶叫マシーン好きが多いのか？

考察 2

なぜ男性よりも女性の方が
衝動買いをする人が多いのか？

考察 3

なぜ男性よりも女性の方が
過食症・拒食症になる人が多いのか？

ご成長ありがとうございます

ワーク

その1

リビドーとエロス

あなたの日常生活で
リビドー（生の本能）
や

エロス（生の欲動）
を自覚する時はどんな時ですか？

その2

モルティドとタナトス

あなたの日常生活で
モルティド（死の本能）

や

タナトス（死の欲動）
を自覚する時はどんな時ですか？

その3

リビドーとモルティド

あなたの日常生活で
リビドー・エロス（生のエネルギー）
と
モルティド・タナトス（死のエネルギー）
が
巧みに協力する時はどんな時ですか？